

相國○藤原頼通被賞中君延久年中後三條院同幸此寺社狛犬犢等之類並舟而來人謂神仙近代之勝事也

〔平家物語〕妓王事

京中に聞えたる、まらびやうしのじやうすぎ王ぎ女とて、おと、ひあり、どちといふまらびやうしがむすめなり、まかるにあねのぎわうを、入道相國○平清盛てうあいし給ひしうへいもどの妓女をも、世の人もてなす事なのめならず○中略京中のまらびやうしども、ぎわうが、さいはひのめでたきやうをきひて、うらやむものもあり、そねむものもあり、うらやむものどもは、あなめでたのぎわう御せんのさいはひや、おなじ遊女とならば、たれもみなあのやうでこそありたけれ、いかさまにも、妓といふ文字を名に付て、かくはめでたきやらん、いざや我らもついてみんとて、あるひは妓一妓二とつき、あるひはぎふくぎとくなくも、ものもありけり、そねむものどもは、なんでう名により、文字にはよるべき、さいはひは、たゞせん世のむまれつきでこそあんなれとて、つかぬものもおほかりけり、

〔當世武野俗談〕新吉原松葉屋瀬川

新吉原江戸町松葉屋半右衛門抱瀬川といふ傾城は、十ヶ年以來は、五丁町に並ぶ方なき全盛なり○中略寛文の頃には、小紫は能く和歌の道に達し、不斷敷嶋の道を尋ね、風雅にして心やさしく、世上こそつて、偏に石山寺の觀世音にて、源氏六十帖編集したる紫式部にも似たりとて、其名を小紫と號けしとなり○中略又嶋原の吉野は、初め浮船と名乗しを、或春郭櫻の花盛を見て、嶋原籠中の吟とて、

こ、にさへさぞな吉野は花ざかり

と云ふ名句有りしゆゑ、これより世に吉野と呼ばれける、